

施設の機能と具体的な内容の検討項目について

記録や資料の収集保存（資料エリア）

ここでは、世界初の甚大な複合災害による史上類を見ない遺構や遺物、文書等の現物や映像、写真を収集して散逸を防ぎ、保存して後世へ継承することとしている。

収集・保存の対象として記載すべき項目

- ・被災前の地域に関する記録
- ・原発誘致の経緯、電源開発の歴史
- ・被災状況
- ・災害対応（緊急対応、復旧、復興）、支援活動（行政及び民間ごと）
- ・原発事故への対応
- ・原子力災害による避難、除染
- ・復旧・復興対策
- ・地域住民の避難等により継承が危ぶまれる地域の文化、伝統芸能
- ・風評被害の状況
- ・住民のメンタルや地域コミュニティに関するもの
- ・経済的な影響
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

収集・保存すべきもの

- ・震災や放射能、原子力に関する本、雑誌などの出版物
- ・行政資料（災害対策本部設置や避難指示に関する行政文書等）
- ・震災の映像、写真、証言映像（県民から収集した映像や写真等）
- ・報道映像（水素爆発や事故原発への空中放水に関する映像等）
- ・遺構、遺物（震災の時刻に止まった時計等）
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

調査・研究（研究エリア）

ここでは、全世界で福島にしかない収集資料に集う研究者に調査・研究する場を提供し、関連する研究会やシンポジウムを開催し、研究成果を国内外に発信・拡散するとともに、全世界の災害研究・教育にも寄与していくとしている。

想定される研究テーマについて

- ・ 原子力災害発生時の住民の避難行動の分析
- ・ 災害時の情報伝達の状況
- ・ 災害時の要援護者の状況
- ・ 交通や物流の分断の状況
- ・ 住民の心身の健康に与えた影響
- ・ 報道の変遷
- ・ 風評被害が生じた経緯
- ・ 避難地域市町村の復旧・復興のあゆみと今後のプロセス
- ・ 地域の伝統や文化の喪失や変化
- ・ 今後発生が懸念される大災害に対する防災・減災に福島の経験をどう生かすか
- ・ 地域コミュニティの崩壊と再生の過程
- ・ 復興を支援する企業との共同研究
- ・ 地域へ与えた経済的な影響
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

研究者の世界的なネットワーク形成のための取組について

- ・ 原子力災害に関する研究の国際的拠点づくり
- ・
- ・
- ・

必要とされる研究者の種類及びその確保方法について

- ・ 大学、研究機関、民間シンクタンクとの連携
- ・ 若手研究員のキャリア形成支援
- ・
- ・
- ・
- ・